インフルエンザ流行状況のグラフ（2009/10シーズン）

2009/2010シーズンは、2009年第36週(8月31日-9月6日)～2010年第34週(8月23日-8月29日)です。ただし、今回のインフルエンザが定点当たり1.00人を超えた時期(第34週)は、厳密には2008/2009シーズンに含まれますが、流行状況を考慮して2009/2010シーズンの流行開始時期としました。

このPDF内で「新型インフルエンザ」と記載しているものは、基本的に新型インフルエンザ(A/H1N1)を指しており、掲載している情報も主に発生当時から2011年3月31日までのものであることにご注意ください。2011年3月31日に、この新型インフルエンザは「新型インフルエンザ等感染症」と認められなくなったことが公表され、通常の季節性インフルエンザととして取扱うこととなりました。また、2011年4月1日から、名称は、「インフルエンザ(H1N1)2009」となりました。

2009/2010シーズンは新型インフルエンザの出現により、流行時期が例年より非常に早く、2008/2009シーズンと比較すると、流行開始の時期からピークとなった時期まで2～3か月程度早くなりました。

広島市衛生研究所の検査結果では、2009/2010シーズン(9月以降)は380人の患者からインフルエンザウイルスが検出されました。
その型別内訳は、ほとんどが新型インフルエンザウイルスですが、2月下旬以降、少数ですがB型インフルエンザウイルスが検出され、第14週に2009/2010シーズン初めてのA香港型インフルエンザウイルスが検出されました。なお、2009/2010シーズンのB型を抗原分析した結果、ビクトリア系統であることが判明しました。

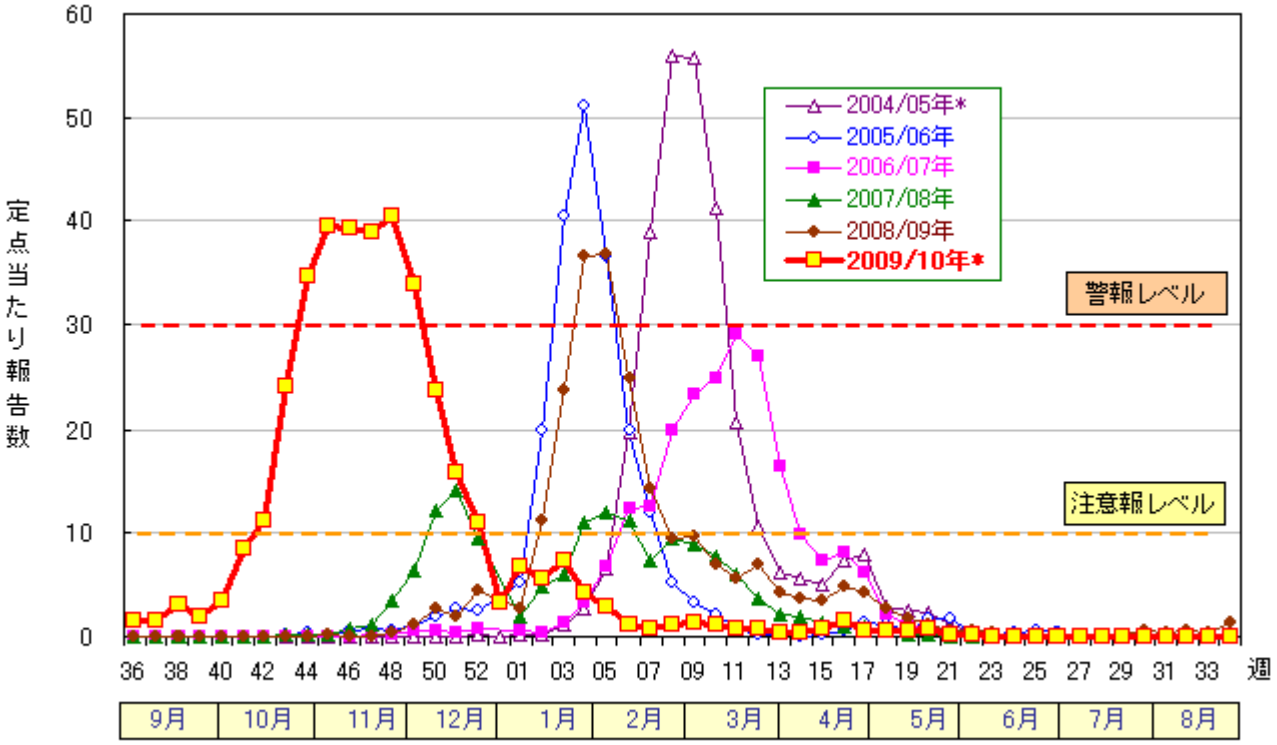
また、検出された新型インフルエンザウイルスのうち134株について、オセルタミビル(タミフル)耐性遺伝子の有無を検査した結果、オセルタミビル耐性株は検出されませんでした(2010年5月7日検体採取分まで)。

新型インフルエンザA/H1N1pdmオセルタミビル耐性株検出状況（2009/10シーズン）（広島市）

2010年5月7日検体採取分まで

	検体採取月（2009年6月～2010年5月）												計
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
オセルタミビル耐性株検出数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査検体数	4件	33件	15件	9件	25件	14件	19件	6件	2件	2件	4件	1件	134件

定点当たり報告数の推移（広島市）

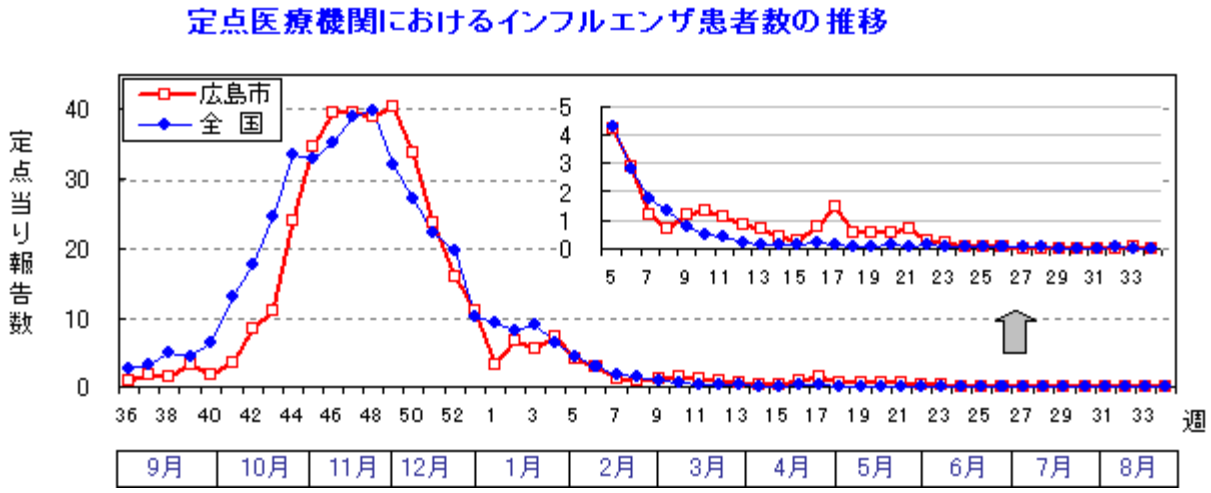


【備考】

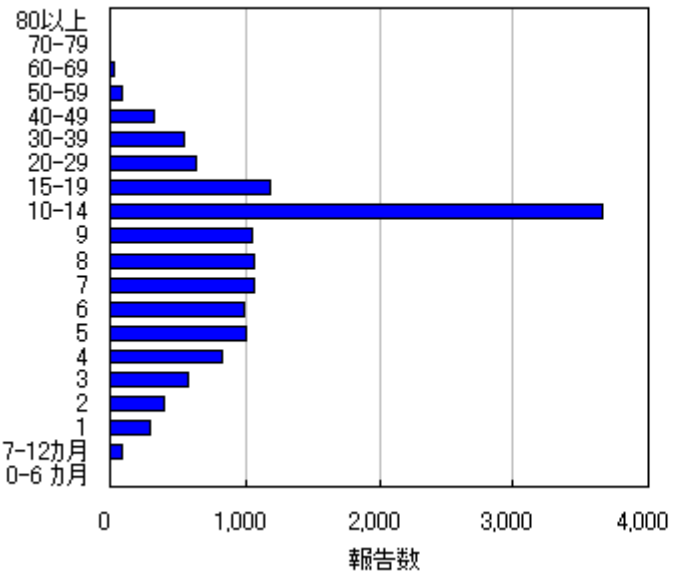
・凡例で*をつけたシーズンの年末は第53週まであります。

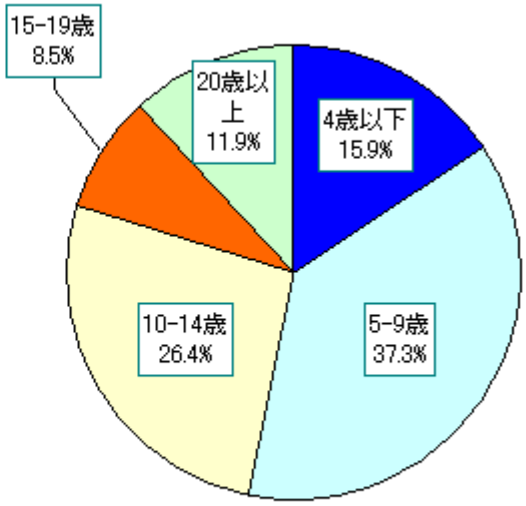
・週と月の関係は年によって多少異なりますので、大体の目安と考えてください。

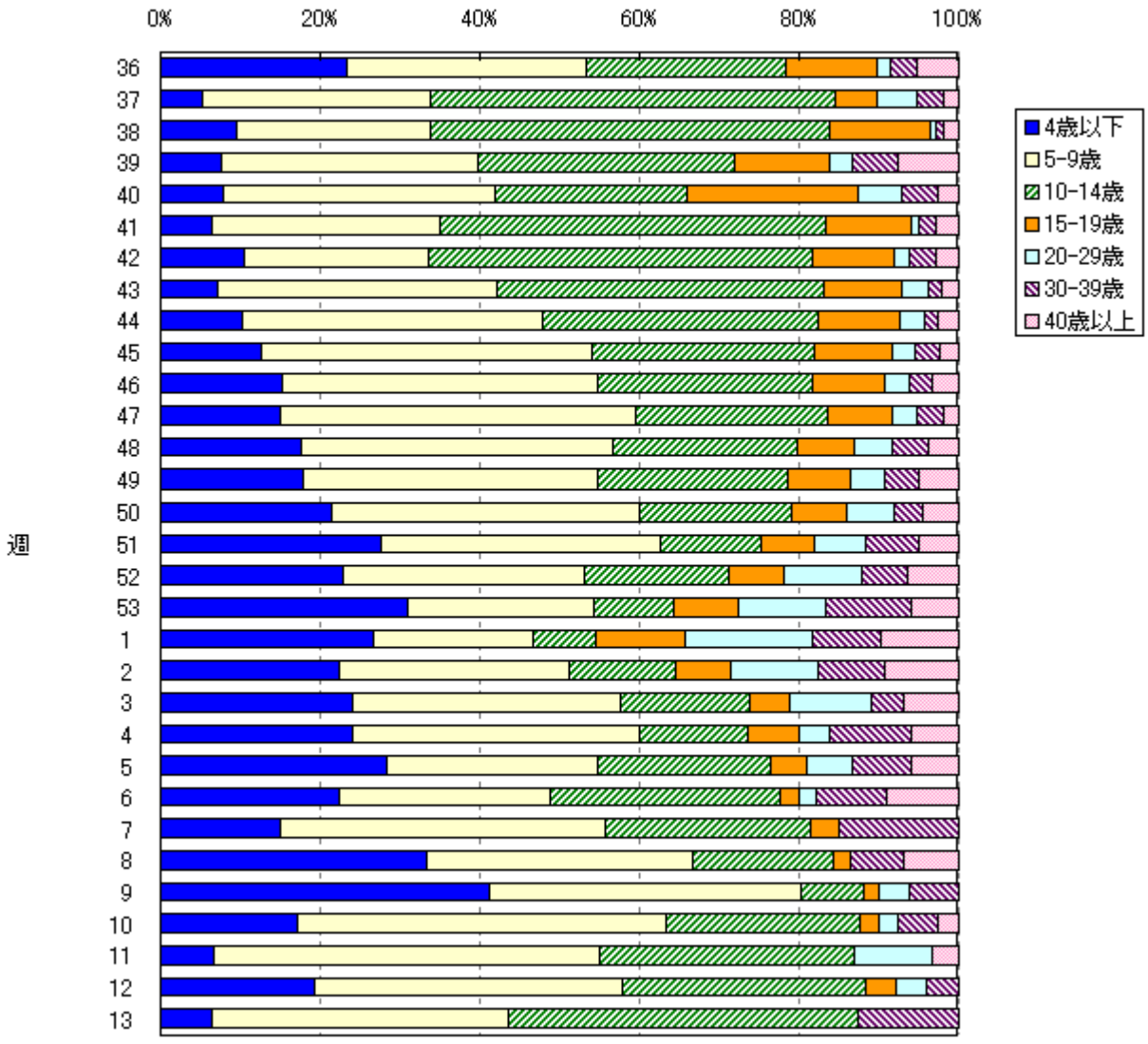
定点当たり報告数の推移（全国・広島市）



年齢階層別報告数（広島市）

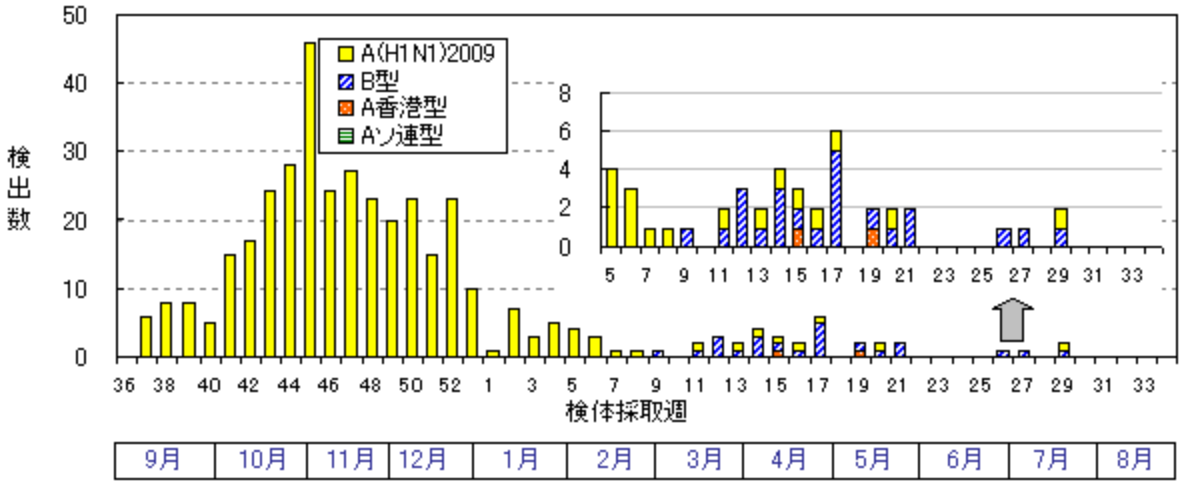






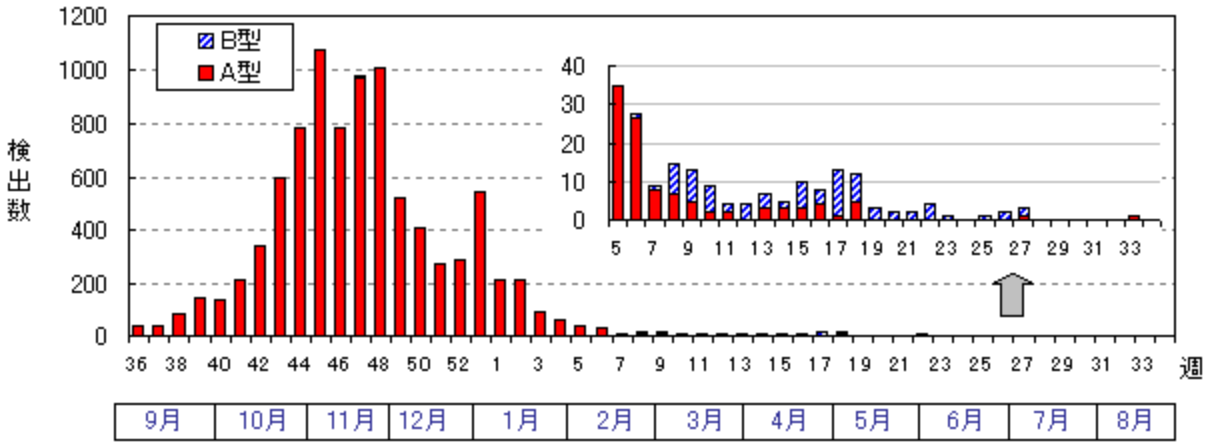
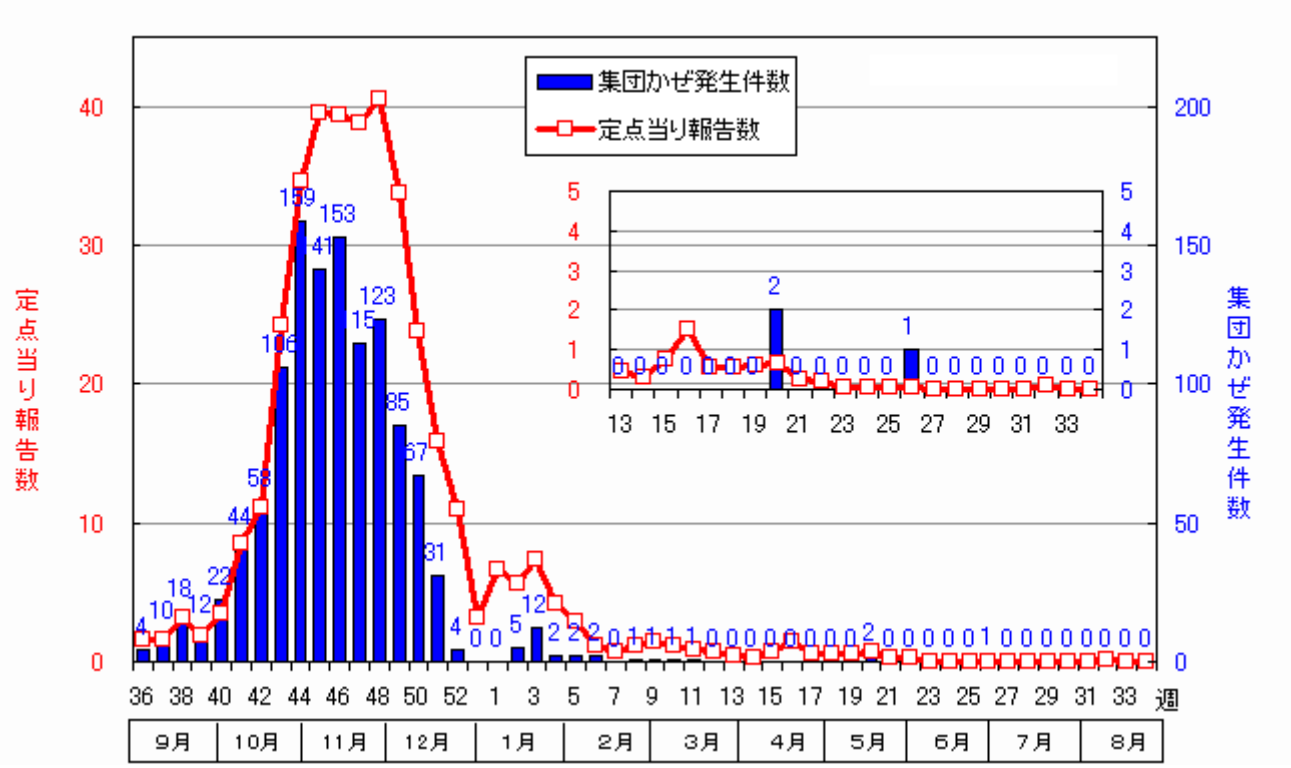
インフルエンザウイルス検出状況（広島市）

衛生研究所におけるインフルエンザウイルスの型別検出状況



(注)検査結果には、感染症発生動向調査における病原体定点においてランダムに採取された検体のほか、新型インフルエンザ疑いのある患者の診断のため検査されたものも含まれています。

迅速診断キットによるインフルエンザ検出状況(基幹病院2か所)



定点当たり報告数と学級閉鎖等の発生件数（広島市）